

【決勝・八学光星―青森山田】3回八学光星2死満塁、渡部主衣が左飛に打ち取られる



秋季高校野球 東北地区大会

第76回秋季東北地区高校野球大会最終日は23日、秋田市こまちスタジアムで決勝が行われ、青森第1代表の青森

山田が青森第2代表の八学光星に3-0で完勝し、8年ぶり2度目の頂点に立った。青森山田は先発の櫻田がノーヒットノーランを達成。打線は初回到2点を先制し、四回に貴重な追加点を挙げた。八学光星は打線が沈黙し、5年ぶり6度目の優勝を逃した。

(取材班)

光星強力打線沈黙

八学光星が悪夢のノーヒットノーランを喫した。青森県大会決勝で敗れた青森山田へのリベンジを誓って再戦に臨んだが、強力打線が完全に沈黙。最後の打者となった渡部主衣は「新チームになってから、2回も同じ相手に負けるのは屈辱的」と悔しさに顔をゆがめた。

焦点

東北の頂点を決める舞台で実現した青森県勢対決。仲井宗基監督は「レベラアップした姿を示してほしい」と、県大会決勝で7失点も崩れた左腕岡本瑠芽を先発のマウンドへ送った。

だが、岡本は初回、1死、1塁といきなりピンチを招く。ここで迎えるは打撃好調の4番打者。強い気持ちで主砲と対峙したが、甘く入ったスライダーを右中間に運ばれた。先制の2点適時二塁打

攻略の糸口つかめず

を浴び、相手に主導権を渡してしまう。二、三回は力のある直球を軸に立ち直ったかに見えたが、四回に安打と四球を許し、再びピンチに。自身の暴投で1死二、三塁とされ、犠飛で手痛い追加点を献上した。四回で無念の降板。「相手の方が気持ちが上だった」と唇をかんだ。打線は緩急自在の投球を披露する相手先発に無安打に封じられ、凡打の山を築いた。唯一のチャンスは三回、2四死球と敵隊の2死満塁とするも、渡部が左飛に打ち取られた。「コントロールが良く、狙い球を絞り切れなかった」(渡部)と、最後まで攻略の糸口をつかめなかった。またしてもライバルの厚い壁にはね返され、力不足を痛感させられたサイン。渡部は、冬場に打撃を鍛えて見返したいと強打の復活を期した。

(千葉達也)